

緩和ケア部会

がんにより死亡する人の減少
がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成
29年度までに20%減少させる。

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の
質の維持向上

全体目標

部会が担当す
る分野の課題
と目標

【目標】
質の高い緩和ケア医療の提供

最終目標
除痛率調査方法のベースラインが出来ている

中期目標
除痛率の指標を作る

指標
除痛率90%

指標
除痛率60%

測定方法

測定方法

5

施策毎
のアウト
カム目標

施策毎
のアウト
プット
目標

施策
アクション
プラン

ワーク
シート1で
導き出さ
れた対策
項目

【アウトカム目標1】平成26年3月までに、すべての患者が緩和ケアを正しく理解し、治療に参加できる必要な機会にアクセスできる環境を整える

26年3月までに、宮古又は石垣で1回開催

26年3月までに、拠点・支援病院と協議会のHPで情報を発信する

参加者2年間で500名(二次医療圏ごとに、1年に1回開催)

(1-1)緩和ケアハンレット作成

(1-2)緩和ケア講演会を定期開催

(1-3)HPの緩和ケア情報を充実させる

【施策1】一般・患者、家族への情報提供を行う

●月までに評価アンケートを実施する

平成24年度は支援病院、参加希望施設、拠点病院で調査を開始する。

平成24年度末までに調査方法の構築を完了

【施策3】除痛率の確立をはかる

26年3月までに、患者会を後援する、又は、講演会を開催

【施策2】患者会への協力

【アウトカム目標2】26年3月までに満足60% (2)30年3月までに90%

26年3月までに、アンケート解答がない患者さんとのニーズのギャップを明らかにする

(1)26年3月までに修了者180名増加 (2)30年3月までに修了者180名増加

【施策4】緩和ケア現状調査

【施策5】緩和ケア研修会の実施

【施策6】フォーアアップ研修会及び在宅緩和ケア研修会の実施

【アウトカム目標3】30年3月末までに基本的な緩和ケア医療ができる医師が630名増加し、一般的な緩和ケア医師が210人増加する

26年3月までに、緩和ケア医療ができる医師以外の医療者が2倍増え、25施設の緩和ケアチームの依頼が5倍に増える

【アウトカム目標4】30年までに緩和ケア医療ができる医師以外の医療者が2倍増え、25施設の緩和ケアチームの依頼が5倍に増える

【アウトカム目標5】26年3月までに、看取りを行う施設が2倍に増える

【7-1】がんリハビリ療法士人数把握

【7-2】緩和薬療法薬師人数把握

【7-3】同スキルナース人数把握

【施策7】コメディカルが増員

26年3月までに、拠点・支援病院の依頼数が30%増える

【7-1】がんリハビリ療法士人数把握

【7-2】緩和薬療法薬師人数把握

【7-3】同スキルナース人数把握

【7-4】緩和ケアチーム依頼調査

【7-5】緩和ケアチーム依頼調査

1年に6回開催180名修了

年に1回改訂を行う

28年3月までに本運用を行う

【9-1】看取り施設での勉強会を開催する

【9-2】在宅療養支援診療所のリストアップ作成

【9-3】症状緩和を目的とした緩和ケア関連連携クリティカルパス作成・運用

1年1回の交流会を行う

【10】行政との交流を行う

【11】行政との交流を行う

【対策項目1】患者さんへの正しい情報提供

【対策項目2】より多くの医療関係者への適切な情報提供と教育

【対策項目3】チーム医療体制の強化

【対策項目4】病棟・病診連携の強化

【対策項目5】行政との連携

緩和ケア フォローアップ研修会

報告書

開催日時	平成26年3月7日(土) 9時~17時30分
開催場所	沖縄県医師会館 2階会議室
主催	沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会
協力者	5名
受講者数	19名(医師7名、看護師10名、薬剤師1名、オブザーバー参加1名)

プログラム

9:00-9:10	開会の挨拶	笹良剛史先生(友愛会南部病院麻酔科診療部長)
9:10-9:40	包括的アセスメント	笹良剛史先生(友愛会南部病院麻酔科診療部長)
9:40-9:50	休憩	
9:50-11:10	苦痛緩和のための鎮静	上間一先生(特定医療法人 葦の会 在宅医療支援センターセンター長)
11:10-11:25	休憩	
11:25-12:10	倦怠感	友利健彦先生(沖縄赤十字病院)
12:10-13:10	昼食	
13:10-14:00	輸液と栄養	友利寛文先生(那覇市立病院外科部長)
14:00-14:10	休憩	
14:10-15:10	治療・ケアのゴールを話し合う アドバンスケアプランニング	笹良剛史先生(友愛会南部病院麻酔科診療部長)
15:10-15:20	休憩	
15:20-16:50	死が近づいたとき	栗山登至先生(嬉野が丘サマリヤ人病院)
16:50-17:20	振り返り	
17:20-17:25	閉会の挨拶	栗山登至先生(嬉野が丘サマリヤ人病院)



緩和ケアフォローアップ研修会
主催 沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア部会

参加者施設

- 1 那覇市立病院
- 2 沖縄赤十字病院
- 3 沖縄県立宮古病院
- 4 ハートライフ病院
- 5 北中城若松病院
- 6 豊見城中央病院
- 7 与那原在宅ケアセンター
- 8 オリブ山病院
- 9 宜野湾記念病院
- 10 国立病院機構沖縄病院
- 11 友愛会 訪問看護ステーション
- 12 玄米クリニック
- 13 嬉野が丘サマリヤ人病院

研修会の様子



研修会の様子

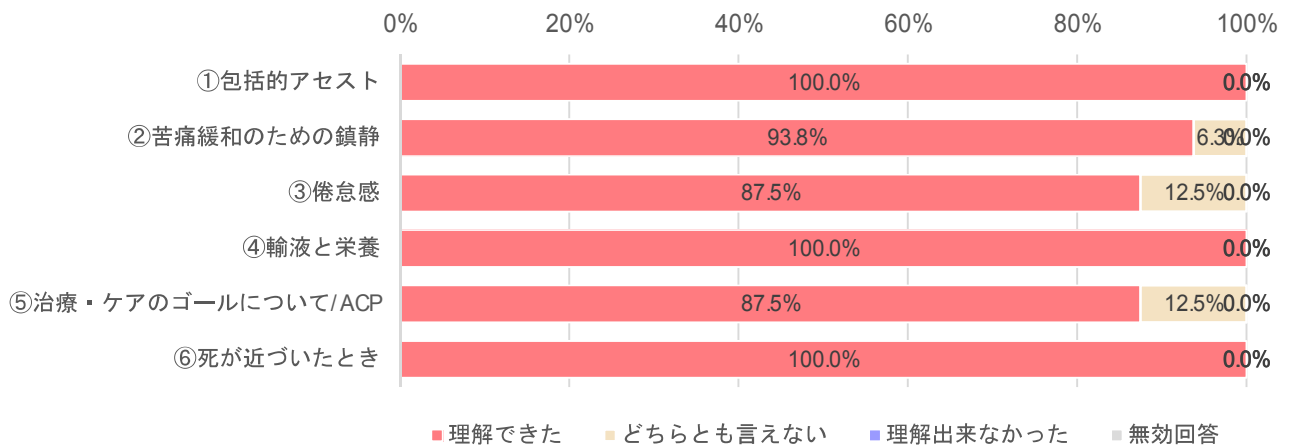


アンケート

回答者 16名（医師以外も含む）
回答率 88%

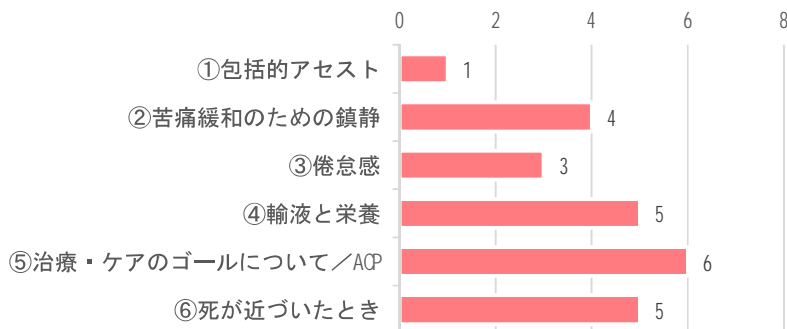
1 ワークショップの理解度

1. 今回のワークショップにおける項目についてお聞かせください



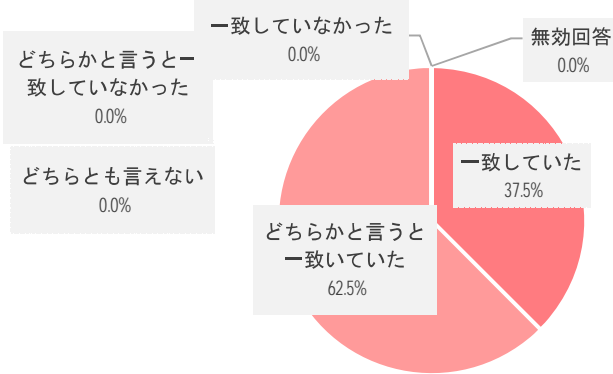
2 ワークショップのうち、特に興味をもったもの

2. 上記の各項目のうち、特に興味をもたれたものの番号をお書きください（MA）

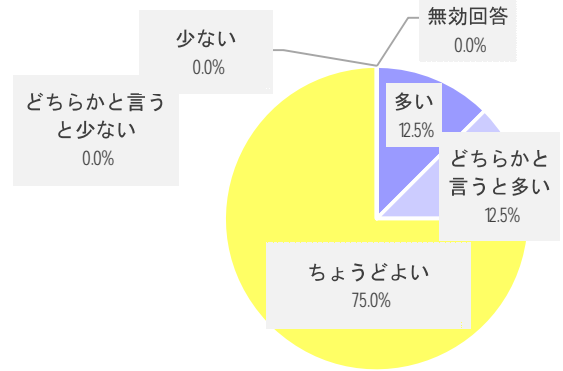


3 今回のセミナーの全体的評価

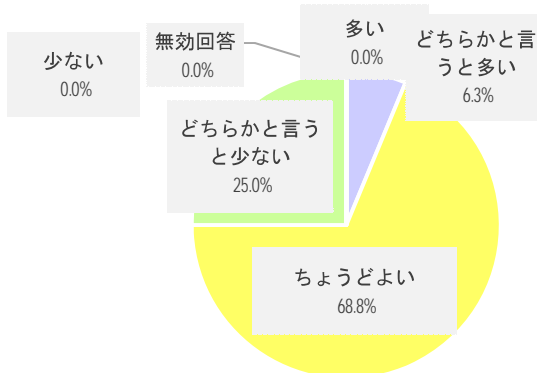
1) 自分が期待したものと一致していましたか



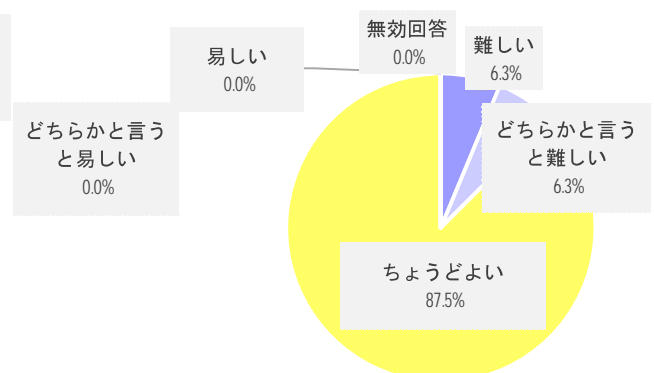
2) 作業量としてはいかがですか



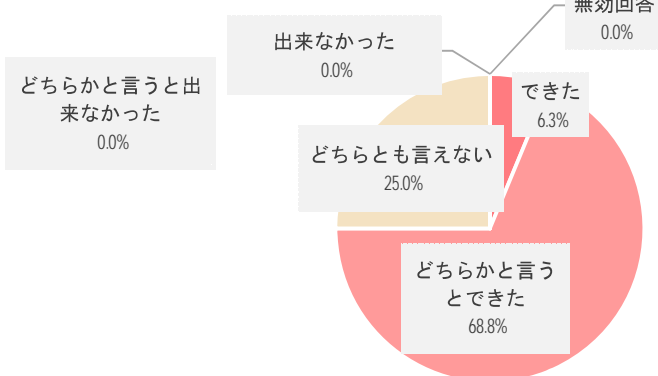
3) 作業量に比べて、時間はいかがでしたか



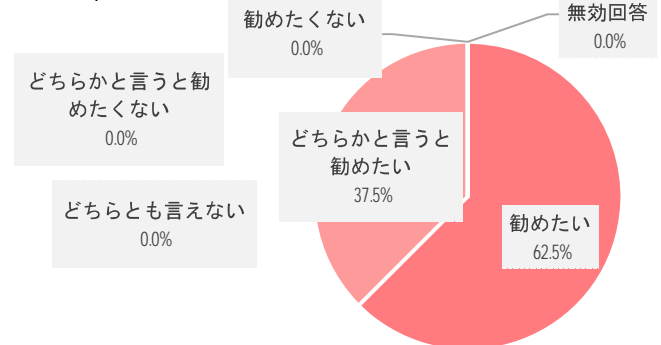
4) 難易度はいかがでしたか



5) 積極的に参加できましたか



6) 今後、他の方にも研修会の参加を勧めたいですか



次回に向けての改善点

- ・ 輸液を在宅で行うとき、よく皮下輸液を行うことがあるが、そのメリット、デメリットについて。又24時間持続皮下輸液も可能の様ですが実際はどの程度の効用があるのかをテーマにしてもらいたい。
 - ・ 3人掛けで座るのは狭い気がしました。
-

その他 ご意見・ご感想

- ・ 一人の先生の意見だけでは補えない所を他の講師の先生が補って話をされたことでより理解が深まりました。
 - ・ ありがとうございます。
 - ・ アドバンス・ケア・プランニングで、臨床現場で今困っている事についてのヒントがありました。
 - ・ 非がん患者の緩和ケアに応用できるのではないかと思う内容も多く、大変勉強になりました。
 - ・ 可能であれば1年に1回程度はブラッシュアップしたい内容です。
-

平成27年度 「沖縄県緩和ケア研修会」 開催一覧

	主催者病院名	A日程	B日程
第1回目	琉大病院	6月28日(日)	7月5日(日)
第2回目	沖縄赤十字病院	8月 1日(土)	8月2日(日)
第3回目	豊見城中央病院	8月 8日(土)	8月9日(日)
第4回目	那覇市立病院	9月13日(日)	9月27日(日)
第5回目	浦添総合病院	10月25日(日)	11月1日(日)
第6回目	中部病院	11月8日(日)	11月15日(日)
第7回目	ハートライフ病院	日程調整中	日程調整中

研修会に関するお問い合わせは、各病院へお願い致します。